

第四十一回 顎関節症と血流障害

例えば右の奥歯が低いと右の首の骨の1番上及び2番目の首の骨は右後方へ回転ネジレするかまたは首の1番下の骨も同じ方向にネジレをおこし、ネジレが強いと痛みの自覚症状が出るのですが、首から出ている神経は首の周囲の筋肉はまたは手の腕へ神経支配している為に「痛み」からさらに「シビレ」さらに「マヒ」へと進むものです。

そして首の骨と関係のある背骨も同じ方向に右側が後方回転のネジレをおこし(左右の同じ位置の歯が高いと前方胸椎又はすべり症といって背骨の骨がねじれでなく前方にズレをおこしやすいものです。)

又、食事のとき、常に片側のみで咬んでいますと、おしりの骨盤の真ん中の骨である仙骨も咬んでいる側にズレをおこし、仙骨とお互いに補正している頭蓋骨の後頭骨も同じ方向にズレを起こし、後頭骨と接している左右の側頭骨(耳の辺りの骨)は互いに逆方向にネジレを起こし、頭蓋骨とおしりの骨盤とは互いに補正している為におしりの真ん中の仙骨とその両側の腸骨との間のスキ間が狭くなったり、逆に開きすぎたりしてギックリ骨又はおしりの片側だけが痛いなどの症状が出やすくなるものです。

又、右の奥歯が低いと足の付け根の股関節が内股のようにネジレ、右足が短くなり、そして足のヒザの脛骨・腓骨が前後にズレ、足首、足の裏、足の指に痛みが出るものです。

ところが歯の人工歯である、インプラント、歯の矯正治療、電磁波は体の右側に硬膜の緊張(脳硬膜、脊髄硬膜)をおこすと中枢神経に異常をおこし又、体の右側に血流障害の症状が出るものです。

そのために内蔵を始め、体の右側が硬くなり、顔が右に向きづらいつつ右足のアキレス腱の下中の骨のショウキョウ関節が硬く、ひねると痛いものです。ひどくなると反対側も同じようになるものです。

そして頭蓋骨の蝶形骨(目の横後2cmくらいに少しくぼみがある左右一対の骨)が右側が後ろへ左側は前へ逆方向にねじれ(但し歯の咬み合せの左右の高さのバランス崩れでもねじれます)頭蓋骨の全部の骨がねじれることになります。

運動をしすぎるくらいの人で左右の体のバランスがとれている人は、蝶形骨はねじれている事はほとんどなく又、顎関節症は無いものです。

これ以外の人をテストしますと、携帯電話の電源を切った時と通話の状態を比較しますと、通話の状態の時に上下の歯を左右静かにあてると、右側の歯があたりが悪くなるものです。

つまり上下の歯と骨との間(歯根膜)に血流不足になると風船が空気を抜けた状態でスキ間が狭くなり、右の上下の歯の辺りが悪くなるものです(入れ歯の歯肉のドテも同じ)。又、体の右半分の関節部の血流不足の為、右側の足が短足になるものです。

インプラントは歯根膜(クッション作用の役目もする)がない為にはの咬み合せを低く作り又インプラントの金属はチタンです。

人工歯のインプラントを装着していない人にインプラントのチタンを持たせると何の反応がないですが、電池の入っている腕時計、携帯電話、空調機、電車に乗るとかしますと電磁波が発生していますので、体の右の硬膜の緊張を起し先に述べた様に蝶形骨を左右にネジレを起し、血流障害をおこすものです。

今度は主として体の左側に硬膜の緊張をおこすのは自分の体に合わない薬、腐った食べ物は蝶形骨の左側が後方へ右側は前方へねじれをおこし左側に血流障害をおこすものです。

言い忘れましたが、蝶形骨のねじれはどこで見るといいかといいすと、牛の角は上に向いていますが、人間の角は下に向いています。それは、蝶形骨の茎状突起です。これを触診できるのは上の歯の奥の奥へ左右の親指をゆっくり入れていきますと、突起の先端にあたります。この突起が左右均等な位置になっているか又は左右が上下に違っている場合は左右の歯の高さが違っているか又は頭蓋骨そのもののねじれなのかどちらかです。

テストとして自分の体に合わない薬を体の上に乗せると、蝶形骨の茎状突起が左側が後ろへ「ズレ」ます。そして、薬を体から取り除いてインプラントの金属であるチタンを今度体の上に乗せると2・3秒で茎状突起が今度は逆に右側が後へ「ズレ」をおこします。

又、今度は体に合わない薬とチタンとを体に乗せると体全体の血流障害を起します。